



平成24年3月期 第1四半期決算短信〔米国基準〕(連結)

平成23年7月29日

上場会社名 株式会社ワコールホールディングス
 コード番号 3591 URL <http://www.wacoalholdings.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚本 能交
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営企画部長 (氏名) 大谷 郁夫
 四半期報告書提出予定日 平成23年8月15日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東大

TEL 075-682-1028

(百万円未満四捨五入)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	41,845	2.1	3,521	40.8	3,959	109.0	2,336	119.5
23年3月期第1四半期	40,989	8.6	2,501	145.2	1,894	553.1	1,064	100.8

(注) 四半期包括利益 24年3月期第1四半期 3,514百万円 (1,557.5%) 23年3月期第1四半期 212百万円 (△96.8%)

	1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	16.59	16.57
23年3月期第1四半期	7.54	7.53

(2) 連結財政状態

	総資産	資本合計(純資産)	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第1四半期	215,596	169,526	167,615	77.7	1,190.02
23年3月期	215,345	168,867	166,967	77.5	1,185.44

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	—	—	20.00	20.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当社株主に帰属する当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	86,000	0.1	6,000	△2.5	6,500	21.9	3,800	36.6	26.98
通期	167,700	1.2	7,800	83.3	8,400	124.7	5,200	98.9	36.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無
- ② ①以外の変更 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期1Q	143,378,085 株	23年3月期	143,378,085 株
② 期末自己株式数	24年3月期1Q	2,527,110 株	23年3月期	2,529,607 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期1Q	140,847,377 株	23年3月期1Q	141,196,784 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後実際の業績は、様々なリスクや不確実性、その他の要因により、当社の実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。これらのリスクや不確実性、その他の要因には以下のものが含まれます。

- ・経済環境の悪化により国内市場及び海外市場の景気が低迷し当社の業績が悪化するリスク
- ・国内の百貨店、量販店及びその他一般小売店の業績不振や営業政策の変更によって当社が影響を受けるリスク
- ・消費者の嗜好を的確に予測しそれに応える能力及び高品質な商品を提供する能力が期待される成果を生み出さないリスク
- ・激しい市場競争により当社の販売シェアや利益率が低下するリスク
- ・SPA(製造小売)事業ネットワークの拡大が売上や利益の拡大につながらないリスク
- ・カタログ及びインターネット販売の強化による売上増加が達成できないリスク
- ・販売不振による在庫の増加が業績を悪化させるリスク
- ・コスト削減が成功せず利益が減少するリスク
- ・有能な人材確保ができず人材が不足するリスク
- ・季節の天候不順の影響により業績が悪化するリスク
- ・海外事業に関連して増加するリスク
- ・買収及びその他第三者との戦略的提携等の成否に関するリスク
- ・新市場の開拓における投資の回収に関するリスク
- ・知的財産権に関連するリスク
- ・個人情報保護や当社の機密保持に関するリスク
- ・内部統制に関連するリスク
- ・有価証券に関連するリスク
- ・自然災害、疫病の発生等に関するリスク
- ・東日本大震災が直接又は間接に与えるリスク

これらの詳細については、当社の有価証券報告書または米国証券取引委員会に提出された年次報告書(フォーム20-F)をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 5
2. サマリー情報（その他）に関する事項	P. 6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 6
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用	P. 6
(3) 会計方針の変更	P. 6
3. 四半期連結財務諸表	P. 7
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 7
(2) 四半期連結損益計算書	P. 9
(3) 四半期連結包括損益計算書	P. 9
(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 10
(5) 継続企業の前提に関する注記	P. 11
(6) セグメント情報	P. 11
(7) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 12
(8) 販売の状況	P. 13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

①当第 1 四半期の業績概況

当第 1 四半期における当社グループを取り巻く環境は、東日本大震災の被害に加え、電力供給の制約による経済活動の停滞など、景気の下振れリスクを含んで推移しました。

衣料品業界におきましても、生活防衛意識の高まりや消費マインドの冷え込みの影響を受け、生活必需品を除くファッション商品の販売は回復基調にあるものの、厳しい状況が続きました。

このような経営環境のなか、当社グループは3ヶ年中期経営計画の2年目をスタートさせ、主力事業会社である株式会社ワコールを中心に、国内事業の構造改革による収益力向上と中国を中心とする海外事業の積極的な展開による成長力強化に取り組みました。

これらの結果、当社グループの当第 1 四半期の連結業績は、主に株式会社ワコールや中国事業において売上が前年同期を上回ったことなどにより、全体の売上高は前年同期を上回りました。営業利益は、株式会社ワコールにおいてコスト削減や経費の圧縮に努めたことや、国内子会社の収益性が改善したことなどにより、前年同期を上回りました。

●売上高	4 1 8 億 4 5 百万円	(前年同期比	2. 1 %増)
●営業利益	3 5 億 2 1 百万円	(前年同期比	4 0. 8 %増)
●税引前四半期純利益	3 9 億 5 9 百万円	(前年同期比	1 0 9. 0 %増)
●当社株主に帰属する四半期純利益	2 3 億 3 6 百万円	(前年同期比	1 1 9. 5 %増)

②オペレーティング・セグメントの営業概況

a. ワコール事業 (国内)

株式会社ワコールのワコールブランド事業本部につきましては、ワコール人間科学研究所の研究成果「からだのエイジング (加齢による体型変化)」を昨年 4 月に発表して以降、基幹商品であるブラジャーが回復基調となり、春のキャンペーン商品を中心に総じて順調に推移しました。一方、新機能ボトムスタイルサイエンス商品群は苦戦し、ガードル・パンツ全体では前年同期を下回りました。また、季節商品の肌着については、一部商品が欠品したことや他社の低価格商品の影響を受け、前年同期を下回りました。これらの結果、主力のワコールブランド事業本部全体の売上は前年同期を上回りました。

ウイングブランド事業本部につきましては、ワコールブランド同様、ブラジャーは堅調に推移しましたが、ガードル・パンツ全体では前年同期を下回りました。また、肌着は量販店などのプライベートブランド商品や他社商品の影響を受けたものの、消臭機能を訴求した販促策が奏功し前年同期を上回りました。メンズインナーはスタイルサイエンス商品群が苦戦したものの、シニア世代向けブランドや軽スポーツ向けブランドの展開が拡大したことや、「部屋テコ (薄くて軽く、デザイン性も兼ね備えたステテコ)」や肌着が夏場の需要を捉えたこともあり、前年同期を上回りました。これらの結果、ウイングブランド事業本部全体の売上は、前年同期を上回りました。

今期よりボリュームゾーンでのシェア拡大に向けて組織改編を実施した小売事業本部 (旧 SPA 事業部) につきましては、主に直営店「AMPHI (アンフィ)」において、ブランド認知度向上に伴い入店客数が増加したことや客単価が上昇したこともあり、売上を伸ばしました。また、アウトレットモールで展開する「ワコールファクトリーストア」は、一部で震災による店舗の被害があったものの全体としては好調に推移し、小売事業本部全体の売上は前年同期を上回りました。

ウエルネス事業部につきましては、スポーツコンディショニングウェア「CW-X (シーダブリューエックス)」ブランドのスポーツ用タイツやブラジャーが好調に推移したものの、震災でテレビ通販の売上が減少した影響もあり、ウエルネス事業部全体の売上は前年同期を下回りました。

通信販売事業部につきましては、カタログ販売が堅調に推移したことや、インターネット販売も伸長したことにより、全体の売上は前年同期を上回りました。

このように、主力事業であるワコールブランドやウイングブランドに加え、小売事業が前年同期を上回ったことなどにより、株式会社ワコール全体の売上は前年同期を上回りました。また、利益面につきましては、前期より取り組みを開始した構造改革による売上利益率の改善や経費削減が奏功し、営業利益は前年同期を上回りました。

●売上高	285億52百万円	(前年同期比	3.7%増)
●営業利益	28億18百万円	(前年同期比	40.9%増)

b. ワコール事業（海外）

海外事業（2011年1～3月）につきましては、米国事業は個人消費が回復基調の中、主力販売チャネルである百貨店を中心にシェア向上と商品展開の強化、さらに周辺国の売上拡大に積極的に取り組みました。売上面では、前期から引き続き好調に推移している値頃感のあるブラジャーや補整機能のあるボトム商品が牽引したことや、昨年8月より開始したインターネット販売も計画を上回る伸びとなったことで、売上は現地通貨ベースでは前年を上回ったものの、為替変動の影響により前年同期を下回りました。一方、利益面では売上の増加に加え、原価低減に伴う売上利益率の改善によって、営業利益は前年同期を上回りました。なお、当期における米ドルの為替換算レートは81円（前年同期90円）となっております。

中国事業につきましては、中国経済が不安定要素を含みながらも拡大を続ける中、個人消費の伸びはやや鈍化しつつあるものの堅調に推移しており、前期に引き続き商品力の強化と内陸部を中心とした積極的な店舗展開に取り組みました。売上は出店拡大に伴い前年同期を大きく上回りましたが、出店費用やワコールブランドの認知度向上のためのプロモーション費用の増加などにより、営業利益は前年同期を下回りました。

●売上高	54億52百万円	(前年同期比	3.8%増)
●営業利益	5億37百万円	(前年同期比	16.5%減)

c. ピーチ・ジョン事業

株式会社ピーチ・ジョン（2011年3～5月）につきましては、震災により仙台支社が被災し、国内直営店舗への商品デリバリーの遅延や短縮営業、また通信販売の受注業務が約1ヶ月に亘り停止になるなど大きな影響を受けましたが、4月に営業を再開いたしました。

通信販売は、主力の下着カタログは震災による受注停止の影響や、販売スケジュール変更に伴い売上計上時期が従来よりも後ろ倒しになったこともあり、売上は前年同期を下回りました。国内直営店は震災の影響に加え、前年同期に比べて店舗数が減少したことなどにより、売上は前年同期を下回りました。海外直営店は上海にオープンした5店舗は苦戦しましたが、香港に出店している2店舗は堅調に推移しました。しかしながら、国内事業の震災による影響が大きく、ピーチ・ジョン事業全体の売上は、前年同期を下回りました。

利益面では広告媒体の見直しなど効率化に取り組んだことや、前期に実施した事業所統廃合による人件費や固定費の削減などにより、国内事業は収益改善が着実に進み黒字となりました。しかしながら震災の影響に加え、中国事業拡大に伴う費用が増加したことや毎期計上している名簿償却費用の影響もあり、ピーチ・ジョン事業全体では営業損失が生じました。

●売上高	27億49百万円	(前年同期比	9.1%減)
●営業利益	△56百万円	(前年同期は営業損失1億98百万円)	

d. その他

株式会社ルシアンにつきましては、主力のインナーウェアを展開するインナー事業部は、大手得意先との共同開発商品の展開が拡大したことなどにより、好調に推移しました。一方、アウターウェアを展開するアパレル事業部は、取り扱い商品の縮小などの影響もあり、前年同期を下回りました。これらの結果、ルシアン全体の売上は前年同期並みとなりましたが、利益面については収益性の改善や経費削減が奏功し、営業利益は前年同期を上回りました。

マネキンの製造販売やレンタル、商業施設の設計や施工を行う株式会社七彩につきましては、物販が堅調に推移しましたが、前期の百貨店の売場改装工事が一巡したことに加えて、震災による取引先の投資抑制やイベント中止の影響で短期のマネキンレンタルが苦戦し、売上は前年同期を下回りました。利益面においては、経費の見直しを徹底したことで前年同期の営業損失から改善し、黒字となりました。

●売上高	50億92百万円	(前年同期比	1.8%減)
●営業利益	2億22百万円	(前年同期比	296.4%増)

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債、株主資本等の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、株価の変動による投資の増加などにより、前連結会計年度末に比して2億51百万円増加し、2,155億96百万円となりました。

負債の部は、未払金の減少、夏季賞与の支払による未払賞与の減少や法人税等の支払による未払税金の減少などにより、前連結会計年度末に比して4億8百万円減少し、460億70百万円となりました。

株主資本は、為替換算調整勘定や未実現有価証券評価益の変動などにより、前連結会計年度末に比して6億48百万円増加し、1,676億15百万円となりました。

以上の結果により、当第1四半期連結会計期間末における株主資本比率は、前連結会計年度末に比して0.2%増加し、77.7%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比して19億54百万円減少し、250億27百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益23億80百万円に減価償却費や繰延税金などによる調整を加えた金額に対して、資産及び負債の増減などによる調整を行った結果、3億94百万円の支出（前年同期に比し4億85百万円の支出増）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却及び償還収入などがあつたものの、有価証券や有形固定資産の取得などにより、6億57百万円の支出（前年同期に比し12億25百万円の支出減）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより、9億91百万円の支出（前年同期に比し6億13百万円の支出増）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想数値につきましては、平成23年5月13日発表時の業績予想を以下の通り修正しております。

(平成24年3月期 第2四半期連結累計期間業績予想)

●売上高	860億00百万円	(前年同期比	0.1%増)
●営業利益	60億00百万円	(前年同期比	2.5%減)
●税引前四半期純利益	65億00百万円	(前年同期比	21.9%増)
●当社株主に帰属する四半期純利益	38億00百万円	(前年同期比	36.6%増)

(平成24年3月期 連結通期業績予想)

●売上高	1,677億00百万円	(前期比	1.2%増)
●営業利益	78億00百万円	(前期比	83.3%増)
●税引前当期純利益	84億00百万円	(前期比	124.7%増)
●当社株主に帰属する当期純利益	52億00百万円	(前期比	98.9%増)

第2四半期連結累計期間の売上につきましては、東日本大震災の影響による一時的な減少はあったものの、4月度以降は回復基調となり、株式会社ワコールをはじめ国内子会社の売上は総じて当初予想を上回る見込みです。利益面につきましても、売上が前回発表予想よりも上回ることによる売上総利益の改善や、販管費を中心とした全社的なコスト削減により、各利益ともに当初予想を上回る見込みです。

通期につきましては、電力供給の制約や経済環境の先行き不透明な状況が依然続くと想定されますが、第2四半期連結累計期間の業績予想を勘案したところ、売上、各利益ともに当初予想を上回る見込みです。

当社グループをとりまく事業環境は、震災直後に比べて足元の消費動向には改善の動きが見られるものの、景気の先行きについては見通しが困難な状況にあります。このような状況の中、当社グループでは真に価値のある商品を継続的に展開することで売上規模を拡大していく考えです。

株式会社ワコールにつきましては、引き続き構造改革による国内事業の収益構造の改善を図るとともに、ワコール人間科学研究所が新たに発表した研究成果「おなかとヒップのエイジング（加齢による体型変化）」をキーワードに商品展開を推進し、回復基調となったブラジャーに加えて、ボトム商品の活性化に繋げていきます。また、今後も成長が期待できる小売事業やウエルネス事業などについても積極的な拡大を図っていきます。さらに、株式会社ルシアンも含め、当社グループ全体の総合力を発揮した得意先との協業やシェア拡大を狙います。

海外事業に関しては、米国事業は為替の影響が懸念されるものの引き続き順調に推移しております。新商品を含め商品展開をさらに強化しつつ、販売チャネルの拡張にも取り組んでいきます。中国事業はリスクファクターが存在するものの、事業環境の変化に的確に対応し、新規出店と積極的なプロモーションを展開して売上拡大を図ります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

科 目	前連結会計年度の 連結貸借対照表 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日)	増減金額
(資産の部)	百万円	百万円	百万円
I. 流動資産			
現金及び現金同等物	26,981	25,027	△ 1,954
定期預金	698	738	40
有価証券	4,819	4,613	△ 206
売掛債権	20,871	22,906	2,035
返品調整引当金及び貸倒引当金	△ 1,549	△ 2,069	△ 520
たな卸資産	30,956	31,068	112
繰延税金資産	5,134	3,863	△ 1,271
その他の流動資産	2,586	3,541	955
流動資産計	90,496	89,687	△ 809
II. 有形固定資産			
土地	21,774	21,787	13
建物及び構築物	60,322	60,476	154
機械装置及び工具器具備品等	14,023	13,938	△ 85
建設仮勘定	93	315	222
	96,212	96,516	304
減価償却累計額	△ 46,467	△ 46,772	△ 305
有形固定資産計	49,745	49,744	△ 1
III. その他の資産			
関連会社投資	14,702	15,255	553
投資	32,672	33,213	541
のれん	10,367	10,367	—
その他の無形固定資産	10,325	10,071	△ 254
前払年金費用	158	447	289
繰延税金資産	879	934	55
その他	6,001	5,878	△ 123
その他の資産計	75,104	76,165	1,061
資産合計	215,345	215,596	251

科 目	前連結会計年度の 連結貸借対照表 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日)	増減金額
(負債の部)	百万円	百万円	百万円
I. 流動負債			
短期借入金	6,117	8,017	1,900
買掛債務			
支払手形	1,623	1,691	68
買掛金	10,507	10,021	△ 486
未払金	5,700	4,471	△ 1,229
	17,830	16,183	△ 1,647
未払給料及び賞与	6,201	4,638	△ 1,563
未払税金	1,870	648	△ 1,222
その他の流動負債	2,405	4,298	1,893
流動負債計	34,423	33,784	△ 639
II. 固定負債			
退職給付引当金	2,200	2,151	△ 49
繰延税金負債	7,441	7,687	246
その他の固定負債	2,414	2,448	34
固定負債計	12,055	12,286	231
負債計	46,478	46,070	△ 408
(資本の部)			
I. 資本金	13,260	13,260	—
II. 資本剰余金	29,401	29,403	2
III. 利益剰余金	136,946	136,466	△ 480
IV. その他の包括損益累計額			
為替換算調整勘定	△ 10,344	△ 9,595	749
未実現有価証券評価益	2,596	2,894	298
年金債務調整勘定	△ 2,002	△ 1,926	76
V. 自己株式	△ 2,890	△ 2,887	3
株主資本計	166,967	167,615	648
VI. 非支配持分	1,900	1,911	11
資本計	168,867	169,526	659
負債及び資本合計	215,345	215,596	251

(2) 四半期連結損益計算書

科 目	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)		増減金額 百万円
	百万円	%	百万円	%	
I. 売上高	40,989	100.0	41,845	100.0	856
II. 営業費用					
売上原価	19,519	47.6	19,479	46.6	△ 40
販売費及び一般管理費	18,969	46.3	18,845	45.0	△ 124
営業費用計	38,488	93.9	38,324	91.6	△ 164
営業利益	2,501	6.1	3,521	8.4	1,020
III. その他の収益・費用(△)					
受取利息	23	0.1	24	0.1	1
支払利息	△ 29	△ 0.1	△ 21	△ 0.0	8
受取配当金	351	0.9	426	1.0	75
有価証券・投資有価証券売却損益及び交換益	—	—	40	0.1	40
有価証券・投資有価証券評価損	△ 960	△ 2.4	△ 50	△ 0.1	910
その他の損益(純額)	8	0.0	19	0.0	11
その他の収益・費用計	△ 607	△ 1.5	438	1.1	1,045
税引前四半期純利益	1,894	4.6	3,959	9.5	2,065
法人税等	1,032	2.5	1,974	4.8	942
持分法による投資損益及び非支配持分帰属損益調整前四半期純利益	862	2.1	1,985	4.7	1,123
持分法による投資損益	262	0.6	395	1.0	133
四半期純利益	1,124	2.7	2,380	5.7	1,256
非支配持分帰属損益	△ 60	△ 0.1	△ 44	△ 0.1	16
当社株主に帰属する四半期純利益	1,064	2.6	2,336	5.6	1,272

(3) 四半期連結包括損益計算書

科 目	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)		増減金額 百万円
	百万円		百万円		
I. 四半期純利益	1,124		2,380		1,256
II. その他の包括損益 — 税効果調整後					
為替換算調整勘定	473		761		288
未実現有価証券評価損益	△ 1,469		297		1,766
年金債務調整勘定	84		76		△ 8
その他の包括損益 合計	△ 912		1,134		2,046
四半期包括損益	212		3,514		3,302
非支配持分帰属四半期包括損益	△ 65		△ 55		10
当社株主に帰属する四半期包括損益	147		3,459		3,312

(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間
	(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
	百万円	百万円
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー		
1. 四半期純利益	1,124	2,380
2. 営業活動によるキャッシュ・フローへの調整		
(1)減価償却費	1,122	1,150
(2)返品調整引当金及び貸倒引当金	552	512
(3)繰延税金	△ 49	1,178
(4)固定資産除売却損益	△ 127	49
(5)有価証券・投資有価証券売却損益及び交換益	—	△ 40
(6)有価証券・投資有価証券評価損	960	50
(7)持分法による投資損益(受取配当金控除後)	△ 57	△ 149
(8)資産及び負債の増減		
売掛債権の増加	△ 596	△ 1,950
たな卸資産の減少	537	36
その他の流動資産等の増加	△ 462	△ 937
買掛債務の減少	△ 2,035	△ 1,573
退職給付引当金の減少	△ 215	△ 209
その他の負債等の減少	△ 793	△ 897
(9)その他	130	6
営業活動によるキャッシュ・フロー	91	△ 394
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		
1. 定期預金の増加額	△ 920	△ 518
2. 定期預金の減少額	23	478
3. 有価証券の売却及び償還収入	—	700
4. 有価証券の取得	—	△ 700
5. 有形固定資産の売却収入	205	15
6. 有形固定資産の取得	△ 703	△ 565
7. 無形固定資産の取得	△ 228	△ 140
8. 投資の取得	△ 270	△ 7
9. その他	11	80
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,882	△ 657
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		
1. 短期借入金の純増加額	2,537	1,886
2. 長期債務の返済	△ 17	△ 18
3. 自己株式の増減	△ 4	3
4. 当社株主への配当金支払額	△ 2,824	△ 2,817
5. 非支配持分への配当金支払額	△ 70	△ 45
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 378	△ 991
IV. 為替変動による現金及び現金同等物への影響額	△ 122	88
V. 現金及び現金同等物の減少額	△ 2,291	△ 1,954
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	24,317	26,981
VII. 現金及び現金同等物の四半期末残高	22,026	25,027

補足情報

現金支払額		
利息	29	18
法人税等	2,104	2,245
現金支出を伴わない投資活動		
株式交換による投資有価証券の取得額	—	126

(5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報

① オペレーティング・セグメント情報

前第1四半期連結累計期間(平成22年4月1日～平成22年6月30日)

(単位:百万円)

	ワコール事業 (国内)	ワコール事業 (海外)	ピーチ・ジョン 事業	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	27,528	5,253	3,023	5,185	40,989	—	40,989
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	685	1,493	10	1,063	3,251	△ 3,251	—
計	28,213	6,746	3,033	6,248	44,240	△ 3,251	40,989
営業利益(△損失)	2,000	643	△ 198	56	2,501	—	2,501

当第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(単位:百万円)

	ワコール事業 (国内)	ワコール事業 (海外)	ピーチ・ジョン 事業	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	28,552	5,452	2,749	5,092	41,845	—	41,845
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	797	1,467	39	1,238	3,541	△ 3,541	—
計	29,349	6,919	2,788	6,330	45,386	△ 3,541	41,845
営業利益(△損失)	2,818	537	△ 56	222	3,521	—	3,521

(注) 各事業の主な製品

ワコール事業(国内)	… インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、アウターウェア、スポーツウェア、レックニット他
ワコール事業(海外)	… インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、アウターウェア、スポーツウェア、レックニット他
ピーチ・ジョン事業	… インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、アウターウェア、その他繊維関連商品他
その他	… インナーウェア(ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー)、アウターウェア、その他繊維関連商品、マキシン人形、店舗設計・施工他

② 地域別情報

前第1四半期連結累計期間(平成22年4月1日～平成22年6月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	欧米	連結
外部顧客に対する売上高	35,600	2,437	2,952	40,989
構成比	86.9%	5.9%	7.2%	100.0%
営業利益	1,632	491	378	2,501

当第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	欧米	連結
外部顧客に対する売上高	36,206	2,743	2,896	41,845
構成比	86.5%	6.6%	6.9%	100.0%
営業利益	3,017	225	279	3,521

- (注) 1. 国又は地域の区分の方法は地理的近接度によっております。
2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域
 アジア: 東アジア及び東南アジア諸国
 欧米: 北米及びヨーロッパ諸国
3. 売上高は連結会社を所在地別に分類したものであります。

(7) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(8) 販売の状況

製品の種類		前第1四半期 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日		当第1四半期 自平成23年4月1日 至平成23年6月30日		増減	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
インナーウェア	ファンデーション ・ランジェリー	28,587	69.8	29,795	71.2	1,208	4.2
	ナイトウェア	2,416	5.9	2,455	5.9	39	1.6
	リトルインナー	455	1.1	480	1.1	25	5.5
	計	31,458	76.8	32,730	78.2	1,272	4.0
アウターウェア ・スポーツウェア等		4,196	10.2	4,123	9.9	△73	△1.7
レッグニット		512	1.2	512	1.2	0	0.0
その他繊維製品 及び関連製品		2,284	5.6	2,031	4.9	△253	△11.1
その他		2,539	6.2	2,449	5.8	△90	△3.5
合計		40,989	100.0	41,845	100.0	856	2.1